

2023 年 7 月 7 日

2023 年度「自立援助ホーム支援助成」事業実施報告書

団体名 特非)自立援助ホームこんぴら鞆橋荘

ホーム名 こんぴら鞆橋荘

代表者・役職名 氏名 理事長 白川勝

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 申請事業の名称

生活環境整備(居室の修繕)

2. 自立援助ホームの概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

理事長白川勝は建設業を営む傍ら、約30年前から里親として子どもたちを数多く受け入れており、建設業を志した子は自身が営む建設会社に迎え入れてきました。そして平成28年4月にNPO法人として自立援助ホームを設立し、現在も若者の支援を続けています。

3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

県内児童相談所のみならず、近県からの措置や保護観察所の委託に備え、人員の配置を行っていますが、現在6部屋あるうち快適に過ごせる部屋が3部屋のみであり、積極的に児童を受け入れることができない状況にあります。

4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

家屋の劣化により、入居児童から冬場の隙間風が寒い、雨漏りがするなどの声があがっています。また児童が暴れるなどした際に破損した壁があり、故意的な破損については本来当事者に請求をすべきものですが、生活もままならない状態で退居した児童に対し、請求を行うことは現実的に不可能であるため、本助成で修繕をはかりたいと思っています。

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

雨漏りの修繕を行った居室に新しく児童が入所することになり、天候に左右されることなく快適に過ごすことができている。また、破損した壁は、穴の修繕と同時に淡いブルー色に塗りなおし、部屋全体が明るく、気分が前向きになるような部屋に仕立て直すことができました。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

快適な居室を準備することができたので、必要な児童に、広く知ってもらい、利用してもらいたいです。現在は、部屋に空きがある状態なので、近県の児童相談所、学校などに積極的に広報を行い、また地域に還元できるような仕組みづくりを構築していきたいです。

7. 参考資料:プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等の現物またはコピー、活動状況の写真などを、“必ず”、別途、ご提供ください。

